

令和2年度 授業改善推進プラン 社会科 (大森第三中学校)

<昨年度の授業改善推進プランの検証>

★取り組みにおける成果と課題

3年生:	授業時数の関係で小テストでの確認は出来なかったが、視聴覚教材を活用する指導の工夫で、歴史的分野の学習内容の理解を深めることが
2年生:	○資料から読み取れることや、学習した内容に関する意見等を自分の言葉で表現するプリント教材を活用して学習することで、表現することに積極的な姿勢がみられるようになってきている。 ○学習内容が知識・理解として定着するよう、プリント教材等も活用しながら随時振り返りをやっているが、さらに充実させていく必要がある。
1年生:	○資料の読み取りをする学習活動を設定することで、資料の読み取りに慣れることが出来てきた。 ○ワークなどで学習内容の定着を図ってきたが、まだ充分ではないので、継続していく。

<社会の内容別結果の分析>

内容	1年生	2年生	3年生
地理的分野	○「世界の中の国土」「日本の工業生産」の各領域で校内平均正答率が目標値を上回った。日本の食料生産についての分析のみ目標値を少し下回った。	○「世界の地域構成」「世界各地の人々と生活と環境」の領域では、校内平均正答率が目標値を上回ったが「世界の諸地域」の領域では、目標値を下回った。 ○特にヨーロッパ地域における偏西風と暖流の影響についての問題で目標値を大きく下回り、30ポイントほど下回った。	○「日本の地域構成」の領域で、校内平均正答率が区平均正答率と目標値をともに上回った。 ○「身近な地域の調査」の領域で目標値を下回った。特に「地形図の読み取り」に関する問題の校内平均正答率が目標値を6ポイント下回った。 ○「日本の諸地域」の「阪神工業地帯」に関する問題の校内平均正答率が目標値を大きく下回った。
歴史的分野	○「我が国の歴史」の領域では校内平均正答率が目標値を上回った。天下統一と江戸幕府のみ目標値を下回った。 ○「日本国憲法」の領域では、目標値を校内平均正答率が大きく上回った。 ○明治維新についても目標値を大きく上回った。	○「古代までの日本」の領域では、「縄文時代～古墳時代」についての問題では校内平均正答率が目標値に達しているが、「飛鳥時代～平安時代」の問題では目標値を下回った。 ○特に「飛鳥時代～平安時代」の特に平安時代についての問題では、校内平均正答率が目標値を10～15ポイント下回り、課題がある。 ○「中世の日本」の領域では、目標値を上回っている。	○「近世の日本」「近代の日本と世界」の領域で、校内平均正答率が区平均正答率と目標値をともに上回った。 ○「近世の日本」の中の「株仲間」に関する問題の校内平均正答率が目標値を30ポイント以上上回った。また、「近世の日本」の中の記述での解答を要する問題の校内平均正答率が目標値を28ポイント上回った。

<社会科の観点別結果の分析>

観点	1年生	2年生	3年生
関心・意欲・態度	○校内平均正答率が目標値を上回った内容が多かったが、参勤交代の藩の財政については校内平均正答率が目標値を下回った。	○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○特に世界各地の人々が住む家のつくりについて考え、説明する問題や、稲作伝来後の社会の様子について写真資料から考える問題では、目標値を大きく上回った。	○校内平均正答率が目標値を上回ったが、複数の資料をもとに判断する問題では、校内平均正答率が目標値を若干下回る場合があった。
思考・判断・表現	○校内平均正答率がほぼ目標値に近い結果となった。遠洋漁業の生産量の変化を考える問題では、目標値を下回った。	○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○弥生時代の農耕と人口増加の関係について考える問題では目標値を下回ったものの、渡来人について資料をもとに考える問題や、メキシコで自動車工業が発達した理由を資料から考える問題等では目標値を大きく上回った。	○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○中部地方の農業に関する記述問題では、校内平均正答率が目標値を大きく上回った。 ○江戸時代の百姓の米作りについての記述問題でも、校内平均正答率が目標値を大きく上回った。
資料活用の技能	○校内平均正答率が目標値を上回る結果となったが、歴史的分野では世界の中が、地理的分野では日本の食料生産が目標値を下回った。	○校内平均正答率は目標値を下回った。 ○特にヨーロッパにおける暖流と偏西風の影響を読み取る問題、オーストラリアの鉱工業に関する資料の読み取りの問題では、目標値を大きく下回った。 ○知識・理解の未定着の影響もあると考えられる。	○校内平均正答率は目標値を下回った。 ○明治初期の特色を資料から読み取る問題では、校内平均正答率が目標値を下回った。
知識・理解	○全体的に校内平均正答率が目標値を上回っている。 ○小学校6年生の最後の方で学習した「日本国憲法の三大原則」については目標値を大幅に上回った。	○校内平均正答率は目標値を下回った。 ○世界の主な大陸と海洋の分布、鎌倉幕府の政治のしくみや外国との関係に関する問題では、目標値を大きく上回ったが、地理的分野では特にASEANや南北アメリカに関する問題や、平安時代の政治に関する問題で目標値を大きく下回り、課題が見られる。	○校内平均正答率が目標値を上回った。 ○全部の領域を通じて、知識・理解についてはおおむね定着がみられた。 ○日本の地域区分(都道府県)の名称と位置など、江戸時代の鎖国下の対外関係や産業の特色に関する問題では、校内平均正答率が目標値を大きく上回った。

<社会科の課題と具体的な授業の改善策>

学年	課題	具体的な授業改善策
1年	○歴史的分野と地理的分野での思考判断表現の向上が課題。	○主体的に学習に取り組む教材を活用し、確実な知識の定着をはかる。 ○基礎・基本となる内容を繰り返し確認する機会を作る。 ○資料を活用するプリント教材などを用意し、資料の読み取りに慣れることができるようにする。
2年	○資料活用の技能や知識・理解の観点について、内容によって定着状況にムラがある。	○指導計画を再度吟味し、バランス良く各学習内容の取り組みを進められるように工夫する。 ○知識や技能の定着状況を定期考査や小テストなどで確かめ、必要に応じて補充学習を行う。 ○各単元で資料をもとに考えを深める教材を工夫し、対話的な学習活動も取り入れていく。
3年	○2つ以上の資料の関連を考えること ○考えを文章にすること ○歴史的分野に比べると地理的分野の校内平均正答率が低い傾向がある。	○授業内では、資料を調べる・読み取るなどの活動を取り入れ、資料に親しみを持たせる。 ○個人で意見を書く、グループでの意見交換を行うなどの活動を授業に取り入れ、考えを文章・発言につなげられるように指導していく。 ○学習内容の定着のために、既習事項の確認を適宜行っていく。